



発行
秦野市
農業協同組合
(神奈川県)
〒257-0015
秦野市平沢477
電話 0463(81)7711(代)
発行責任者 小島 敏雄
印刷所 (株)JA情報サービス

今月の特集 4～5面

頑張れ!! 3人の新規就農者
市内で、3人が新たに農業の道を歩み始めた。秦野市農業経営士会やJAはだのが新規就農者を激励。継続的にサポートしていく。

8月訪問日もポスト投函

コロナ影響で簡略化します
8月の組合員訪問日 感染症拡大に伴う緊急事態宣言の影響で、機関紙は、新型コロナウイルス

「JAはだの」のポスト投函による対応とさせていただきます。感染症拡大の防止に配慮した対応です。ご理解をお願いいたします。
8月は組合員訪問日充実強化月間です。ご意見やご要望のある方は、各支所・支店までご連絡ください。(7面に関連記事)

58回目の創立記念日

発展に貢献の組合員表彰

JAはだのは1日、58回目の創立記念日を迎えた。

2日には、組合の発展に貢献して他の模範となった組合員として、北矢名の三竹芳枝氏、堀山下の北村順子氏、前組合長の故・山口政雄氏を協同活動顕彰基金により表彰。長年にわたる協同組合活動への協力に宮永均組合長が感謝を伝えた。

JAは毎年8月1日に、創立記念式を開いて記念日を祝っているが、活動顕彰基金により表彰。長年にわたる協同組合活動への協力に宮永均組合長が感謝を伝えた。JAは毎年8月1日に、創立記念式を開いて記念日を祝っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き中止した。秦野市農協は、1963年8月に大根、本町、東秦野、南秦野、北秦野の市内5農協が合併して発足した。JAは基本理念「夢のある農業と次世代へつなぐ豊かな社会を地域でできずく」を掲げ、引き続き市内の農業や地域の活性化に取り組んでいく。



落花生「郷の香」を収穫する清水さん



故・山口政雄氏

北村順子氏

三竹芳枝氏

山口勇さんが農水大臣賞

県茶品評会で堂々最高位 築いた長年の技術発揮

菩提でわさびや茶園を営む山口勇さんが、7月20日に開かれた神奈川県茶品評会で、最高位の農林水産大臣賞に輝いた。山口さんは数々の品評会などで大臣賞を受賞し、今回が通算で13回目。長年磨き上げてきた栽培管理から製造まで幅広い茶づくりの技術が、高い評価につながった。

同品評会は、県茶業振興協議会が主催するもの。県内の茶生産者が出ると丁寧に仕上っている。山口さんは「最高位の評価をいただけて大変うれしく思う。今後も恵まれた自然環境の中で、しっかりと茶づくりに向き合っていきたい」と笑顔を見せた。

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

秦野の落花生いよいよ出番

落花生の収穫が8月上旬、市内では始まった。生産者の一人、鶴巻南の清水正夫さんは、約80年で「郷の香」との改良半立を栽培している。落花生は連作障害が起きやすいため、米と輪作し、毎年畑を変えて生産。



清水さんは「うでピー」用落花生の出荷量が一番多く、市の特産品を支えている。「秦野の落花生は人気が非常に高い。消費者の期待に応えるためにも、品質の良いものを生産していきたい」と意気込む。

JAグリーンはだのが店舗を改装し、9月11日(土)にリニューアルオープンします。リニューアルに合わせて、次のキャンペーンを行いますので、ぜひお越しください。

◎リニューアルキャンペーン & 農機展示会 9月11日(土)～13日(月) お買い物した方に粗品をプレゼント。各日午前中は、肥料・農

JAグリーンリニューアル

キャンペーンや農機展示も

薬メーカーが相談をお受けします。農業機械センター前では、トラクターや管理機などの農機を展示・販売します。

◎農家を応援キャンペーン 9月11日(土)～19日(日) ボードン袋やテープなどを特別価格で販売します。お問い合わせは、生産資材課まで。 ☎81-7719



農林水産大臣賞に輝いた山口さん

中学校給食の協定締結

地場産農産物を活用／12月スタート

市とJAが連携、農業振興も

JAはだのは、秦野市と「中学校給食における地場産品の活用に関する協定」を結んだ。今年12月の中学校給食開始に向けて、互いに連携・協力し、地場産農産物を活用していくことを取り決めた。

協定は地産地消を推進する中で農業を振興する。また、地域に根差した食育の推進と、地域両者が連携し、新鮮な農産物を安定的に供給・活用する他、生産者の確保・育成と生産振興を図ることなどを取り決めた。



内田副市長と宮永組合長が協定書を交換

が各自で配膳して食べることを予定している。市は、2025年までに給食用食材の地場産使用率を50%にする目標を掲げている。



小菊の生育状況を確認する亀崎部長

小菊が出荷最盛

盆・彼岸用に多くの消費者へ

県内トップの小菊の生産量を誇る秦野市。盆・彼岸用の小菊が、出荷の最盛を迎えた。花き部会露地部の部員は、収穫や選別、箱詰めなどの作業に連日汗を流した。

亀崎部長は「長雨で消毒のタイミングに苦慮したが、良質な小菊に仕上がった。自信を持って出荷できるものを作っている。多くの消費者に手に取ってもらいたい」と笑顔で話した。

コロナ禍の食料支援

農家や女性部に呼び掛け 米やレトルト食品提供

JAはだのは1日、食料支援の取り組み「はだものに困っている市民約200人に、食料を提供。組織一体となって地域に貢献した。」



地場産の野菜や米を寄付

JA東西しらかわから米600kgを受け取った。当日は、女性部の櫛田真弓部長やじばさんず運営協議会の三武利夫会長らが搬入に協力した。

接近！おじやまはす

時期には農作業を手伝っていた。現在は、自宅の横にある畑で、キュウリやオクラ、サツマイモなど、家族で食べる野菜を10品目ほど栽培。夫の仕事が休みの日に、2人で農作業を楽しんでいる。

吉田さんが女性部に加入したのは、26歳の時。当時、部員として活動していた義母に勧められ、仲間に入った。38歳で「若いリーダー」に選ばれてから12年、若い部員の代表として活動に参加。その後、北支部の副支部長を6年間経験し、今年度から支部長に就任した。「女性部に参加して、知り合いが増えた。地域仲間と交流しながら、皆で一緒に活動できるのが楽しい」とやりがいを感じている。

女性部が考案した、手ぬぐいで作る帽子「さつとカブリナ」は、依頼を受けてこれまでに何十枚も仕上げ、多くの部員から頼りにされてきた。

女性部の仲間と活動楽しく



横野の吉田 美津江さん(56)

吉田さんは「これからも健康に気を付けながら、仲間との交流を大切に活動していく。初孫が生まれたばかりなので、楽しみがさらに増えそう」と笑顔を見せた。

やえのちゃんびーなマンの「JAってなに??」

今回は「国産国消」に関する三つ目のリスクについて知りたいな。

三つ目は「自然災害の多発」よ。近年、世界中で異常気象などの自然災害が多発しているの。日本が多くの食料を輸入している国でも、豪雨、大雨、干ばつなどが起きているわ。自然災害による被害は、被災国内の食料供給に影響を与えるだけでなく、そ

の国から食料を輸入している日本にとっても大きなリスクとなるのよ。このまま自然災害が続けば、農畜産物が生産できなくなって、最終的には食料不足になるかもしれないの。

そうなんだ。僕たち一人一人が普段から食料を輸入することに依存せず、「国産国消」の考えを実践していくことが重要なんだね。教えてくれてありがとう、やえのちゃん。





‘農家の声、届ける

市長と市議会議員に農業振興へ要請書

J Aはだの常勤理事は7月30日、秦野市役所を訪れ、農林業施策・予算要請書を提出した。宮永均組合長が代表し、高橋昌和市長と今井実市議会議員に、農家の声を届けた。

要請は、安定的な農業経営や地域農業の振興につながるよう毎年行っているもの。要請書の内容は、生産組合や業種別部会からの意見を集約して、農政対策委員が確認し、高橋市長は「新規の要

請も含めてよく検討し、しっかり対応していきたい」と応えた。

ブドウ最盛期 甘さ乗り品質上々

市内で、ブドウの収穫「ドウ」に仕上がった。が最盛を迎えた。果樹部は、50坪の園で大粒種の会ぶどう部の部員は、日々収穫作業に汗を流して「藤稜」を中心に10品種を栽培。木が水を吸い過ぎると裂果しやすくなる



大粒の「藤稜」を収穫する栗原部長

ため、根元にはシートを敷いて防水するなど、丁寧に管理している。園の9月中旬まで出荷する予定だ。

栗原部長は「部員が丹精して育てた秦野産のおいしいブドウを、ぜひ多管理するプルーンのもぎ

プルーン人気

市内で唯一のもぎ取り体験園

栗原さんは、11年前からプルーンを栽培している。造園業で身に付けた技術を生かして、プルーンでは珍しい棚栽培を導入。樹高を低くすることで、管理や収穫がしやすい園を作っている。子どもでも気軽に体験できるように、手作りの収穫用道具も用意している。

栗原さんは「プルーンは高温多湿に弱く、近年の気象条件では栽培が難しい面もあるが、今後も楽しみなながら栽培を続けていきたい」と話した。

新規就農者 3人 一歩踏み出す

先輩からエール送る 農業経営士ら励ます集い



関係者が出席した「新規就農者を励ます集い」

市内で、3人が新たに農業の道を歩み始めた。就農したのは、露地野菜を栽培する南が丘の大谷敦子さんと浪沢の飯島友記さん。今泉で酪農を営む小川翔吾さん。秦野市農業経営士会や市、県、J Aはだのが新規就農者を激励し、継続的にサポートしていく。

納得するものを出荷

浪沢の飯島友記さん(40)

ピーマンやエダマメ、サトイモなど年間約10品目の露地野菜を手掛ける浪沢の飯島友記さん。

もともと会社勤めしていたが、以前から興味があった農業の道に進もうと退職し、昨年就農した。会社員時代から農園を借りて農業に携わり、2019年には県立かながわ農業アカデミーに通って、農業の基礎知識や栽培技術を習得。就農への下地を一步步積み上げてきた。

就農後は本で知識を得たり、仲間と情報交換したりするなど、自分なりの技術の確



こたわりは、出荷前に自分が作った野菜を味わえること。納得できるものだけを出荷し、多くの消費者に「おいしい」と思ってもらえる野菜作りを心掛けている。出荷先のじばさんでは、売り切れが続くなど、飯島さんの作った野菜は早くも人気を集めている。

飯島さんは「自分が丹精して栽培した野菜が売れるとうれしく、やりがいを感じる。今後は耕作面積を増やし、営農規模を拡大していきたい」と意気込む。

害獣捕獲で 報奨金交付

制度設定で説明会

はだの都市農業支援センターは5月18日の両日、本所で捕獲報奨金制度説明会を開いた。参加者合計55人に、制度の詳細や報奨金交付申請の方法などを説明した。

センターには以前から「動物を捕獲した際に報奨金を出してほしい」という声が多く寄せられていた。それに応えようと、今年新たに同制度を設定した。

同制度は、有害鳥獣のセンターには以前から「動物を捕獲した際に報奨金を出してほしい」という声が多く寄せられていた。それに応えようと、今年新たに同制度を設定した。

日々栽培技術磨いて 南が丘の大谷敦子さん



ナスを収穫する大谷さん

ナスやネギ、キュウリなど市で合計55坪の畑を借り、母と2人で栽培。種まきから収穫まで全て手作業のため、力を分散させようと各品目を少量ずつ育てている。弟やベテラン農家から、病害虫の防除方法や栽培管理のアドバイスを受ける他、アカデミーで知り合った友人とも情報共有し、日々技術を磨いている。

大谷さんは「目標は畑の面積を広く、1年を通して収穫できる機会が多く、いつか自分の手で野菜を作りたい」という思いを持っていて、大学卒業後は企業に勤めたが、農業を営む弟から「農作業を手伝ってほしい」と依頼があったことをきっかけに就農を決意。2020年に県立かながわ農業アカデミーに通い、栽培技術などを学びながら経験を積み、今年3月に卒業した。現在は市内と中井町、平塚

夢を叶えて牧場経営

伊勢原市の小川翔吾さん(32)

今泉の牧場を引き継いで、〇鰯を搾乳。牛の様子をよく観察し、体調に合わせた適切な世話をする。8月、は牧場内の牛の出産のタイミングが重なったため、生まれ



小川さんは「牛が好きなので、毎日楽しみなが作業している。経営を安定させることももちろん、研修生を受け入れて酪農の後継者育成にも力を入れていきたい」と今後を話した。

小川さんは「牛が好きなので、毎日楽しみなが作業している。経営を安定させることももちろん、研修生を受け入れて酪農の後継者育成にも力を入れていきたい」と今後を話した。

八重桜低樹高に ジョイント 栽培で誘引

捕獲許可を受けている人が、市内で鹿やイノシシを捕獲して自身で処理を行った場合に、所定の手續きをする事で報奨金を受け取れるもの。説明会でセンター職員が、申請書の作成方法や添付する写真を撮る際の注意点を詳しく解説した。

八重桜低樹高にジョイント栽培で誘引

農業を通じて地域おこしに取り組む任意団体「フィールド・フー・シズン」のメンバーが1日、食用八重桜の枝の誘引作業に励んだ。県農業技術センターが開発した「樹木の樹体ジョイント仕立て」を活用し、柳川の遊休農地で栽培。昨年と今年に植えた335本を手入れした。

同団体は、早期成園化や低樹高化で管理の省力化が実証されているジョイント仕立てを、全国で初めて八重桜に応用。高所での作業となる摘み取りの効率化と安全性の確保を目指している。

誘引作業は、メンバー4人が参加。枝を30センチ間隔のV字型になるよう、テープで左右のワイヤーに固定した。

小池勉代表は「ここで育った八重桜を秦野のブランドとして確立させるために、地域と連携してオール秦野」で取り組みを進めていければと意気込む。

東田原の「和田」 千春さん(62)



ナスを収穫する大谷さん

東田原で全日食チェーン「和田ストア」を営む和田勝男さん・千春さん夫妻。勝男さんの母が営んでいた駄菓子屋を継ぎ、1995年にコンビニエンスストアとしてリニューアル。2019年には創業60年を迎えた。店内では手作り弁当や惣菜を中心に、野菜や飲料、日用品などを販売している。幼少期から通っていた利用者から子どもを連れて来店することもあり、世帯を越えて地域に愛され続けている。

「うでピー」お待たせ 直売所で好評販売中

J Aはだのは13日、特定されている一品だ。じ

産品の冷凍ゆで落花生「うでピー」の今年産の浪沢店などで販売している。1袋(250g)500円(税込)。

「うでピー」は、塩水



に浸した落花生をさやごと圧力釜でゆで、瞬間冷凍する。濃厚なうま味と豊かな香りが特徴で、多くのファンに30年以上愛されている。

原料の落花生は、ゆでて食べるのに適した早生種「郷の香(さとのか)」を中心に使っている。今年26人の生産者が、9月1日より、地域農業の活性化にも一役買っている。

足立さんは「地域の協力で、利用者が安心して暮らすことができる」と意気込む。

農業で障害者の居場所づくり

首屋の足立真弘さん

が、NPO法人「みんなの家」の福祉事業に農業を取り入れて、障害のある利用者に農業作業を体験してもらうことで、地域農業の活性化にも一役買っている。

足立さんは「地域の協力で、利用者が安心して暮らすことができる」と意気込む。



部員の畑で栗の生育具合を確認

出荷時期などの意見交換

くり部が
現地検討会

果樹部会くり部は18日、渋沢の畑で現地検討会を開いた。生育状況や、出荷見込み量を確認することが目的。部員ら6人が参加し、今後の見通しなどについて意見を交わした。

部員らは木になっている栗の数の他、粒の大きさや形、色つやなどをチェックした。今年は実が若干小玉傾向であるものの、収量は平年並みと予想。出荷時期は、昨年より1週間程度早くなると

見込んだ。

同部は長年、共選共販体制を維持していたが、今年からは部員それぞれがじばさんずに出荷する体制に移行する。そこで、部員たちの結束力を強めようと、同部オリジナルの商品ラベルを作成。出荷時にラベルを付けることで差別化を図り、多くの来店者に同部の栗をPRしていく予定だ。

小澤明部長は「鳥獣被害など頭を悩ませる問題があるが、品質の良い栗を出荷できるよう、管理を徹底していきたい」と意気込みを話した。

ブランド化目指し品質向上

市長にブルーベリー贈呈

研究会
地場産PRに支援を

ブルーベリー研究会は7月29日、秦野市役所で高橋昌和市長にブルーベリー26パック（1パック200粒入り）を贈った。伊藤隆弘会長ら3人が、市民への地場産ブルーベリーのPRを要望した。



高橋市長（右から2人目）にブルーベリーを贈呈

伊藤会長は「研究会のメンバーを増やして栽培面積を拡大し、地場産ブルーベリーのブランド化を目指していく。新東名の開通によって人の流れが多くなる機会に、ブルーベリーなどいろいろな地場産農産物をPRできたら」と話した。

柿の手入れしつかり
研究会が講習で管理学ぶ

柿研究会は7月27日、菩提で管理講習会を開いた。会員7人が参加。良質な柿を生産するための

管理方法を学んだ。

県農業技術センターの職員が、摘蕾（てきらい）や摘果のポイントを説



柿の生育状況を確認する会員

明。実を付ける量が多いと、翌年に花芽が少なくなってしまうことから、しっかりと着果量をコン

受賞おめでとう！

日頃の成果を発揮

第34回農業保管管理コンクールを6月21日、市内21戸を巡回して実施した。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞Ⅱ 諸星一雄（菖蒲）山口和裕（菩提）
▽入選Ⅱ 村上幸雄（堀山）

日頃の栽培管理について意見を交わした。

須藤忠三会長は「収穫に向けて、柿の手入れが今後さらに重要な時期を迎える。学んだことを参考に管理を進め、大玉の甘い柿を消費者に届けた」と話した。

下）井上暢（堀山下）古宮伸次（立野台）

合会神奈川県本部運営委員会会長賞Ⅱ高梨孝（菩提）▽2等（株）神奈川県農協茶業センター社長賞Ⅱ高梨晃（菩提）▽2等・秦野市農業協同組合代表理事組合長賞Ⅱ相原和夫（菩提）高梨福太郎（菩提）山岸勉（寺山）古谷孝行（菩提）

果樹部会ぶどう部は7月21日、市内園地で大粒種立毛共進会を開いた。審査の結果は次の通り。

▽優秀賞Ⅱ草山一郎（平沢）▽優良賞Ⅱ岩田賀津美（鶴巻北）栗原孝夫（平沢）須藤政一（菖蒲）

かし、近年は残暑が厳しく、植え付け後に高温障害が発生するなど、栽培が難しくなっています。

秋ジャガイモの栽培ポイントをおさらいしましょう。

秋作用の品種を選ぶ

秋ジャガイモは、休眠の浅い品種を選びましょう。「男爵薯」や「メークイン」は、春作用の品種です。無理に植え

ても収量が少なくなり、秋作用の休眠が浅い品種は、作りやすい「デジマ」や「ニシユタカ」

に、早めに植えます。

▼植え付け時期に注意

昔はお盆を過ぎると夜温が下がりましたが、近年は下がらない年があります。日中の平均気温が27度以上のときは8月下

秋期農作業安全運動を実施

9月15日(水)～10月31日(日)

J A はだの9月15日(水)から10月31日(日)まで、秋の農繁期の事故撲滅に向け、秋期農作業安全運動を実施します。期間中は、本所と各支所に農作業安全標語を記載した看板を設置します。

農業従事者の高齢化などにより、農作業中の傷害事故が全国的に増加傾向にあります。市内では昨年10件、今年は6月末現在で6件の労災申請事故が発生しました。農業機械を使用する前には整備や作業点検を必ず実施し、小まめに休息を取るなど、事故防止に努めましょう。

作業点検必ず実施
小まめに休息を

野菜

秋ジャガイモ
栽培のポイント

ジャガイモは、古くは「二度芋」と呼ばれ、春作、秋作ができます。し

営農技術 ヒント・ポイント

かながわ鳥獣被害対策支援センター 0463-22-9521 (朝原・矢野・島田)

農業技術センター 普及指導部 0463-58-0333

・果樹花き課 果樹花き (笹屋) 作物加工課 作物加工 (木村) (中山)

・野菜課 (青木) (草野)

文芸の窓

〈俳句〉(酒井 敏光 選)
分別も思慮も置き去り西瓜食む
佐藤英美子(南矢名)

梅花藻の水に重なる顔と貌
森高 由子(渋 沢)

一筆箋もて足る近況西瓜食む
高島美和子(名古木)

座り良き三角西瓜底平ら
吉田 清美(渋 沢)

星の砂踏んで未来へ晩夏光
菊池としえ(菩 提)

種吹いて賞は種無し西瓜かな
志賀 明子(千 村)

地球儀の裏も表も五輪の輪
芦川 松江(八 沢)

亡父の面未だ炎暑の西瓜畑
石原 松枝(渋 沢)

西瓜割りしたき子がゐて屋下がり
柴崎 和子(渋 沢)

高野山へ町石道や蝉しぐれ
高橋 順子(大秦町)

大寺の憩いの場所の百日紅
柳川みち子(栄 町)

西瓜割りしたたか子等に叩かる
選者

〈短歌〉(久保寺 富男 選)
物くれとついて来る子ら土まみれ
豊けき祖国の孫を思いぬ

評 旅先での情景であろう。東南アジアへ行くところのような光景にであつた。終戦直後の私たちもこんなであつた。翻つて今の孫たちの姿を思うとふくさつたおもいになったのである。

密をさけ一足お先に迎え盆
ご先祖様と話題はつきず

戦時下の娘時代に土手に伏し
機銃掃射を逃れしと母は

さるすべり咲きいるみれば思い出す
亡き弟の病舎への並木 八木 実(鶴巻北)

盆の迎え火懇ろに焚く 伊東 久(渋 沢)

ありがとうそれはなかなか言えないが
言つてみようか心を込めて

ひとり今は待ちくたたびれていむかの日より
はやも五たびの花の季ゆく

大木かずひろ(名古木)
※選者による添削あり

コロナ禍の組合員訪問日

役割と歴史を紹介

組合員訪問日は毎月26、27日に実施しています。JA職員が組合員宅を訪問し、機関紙「JAはだの」や通知物を配布するとともに、組合員とのコミュニケーションをしかし、新型コロナウイルスの



開始当初の組合員訪問日(1968年)

JAはだのは、1968年8月26日に管内の正・准組合員全ての世帯への訪問活動を開始しました。以来53年にわたり、毎月1度も欠かすことなく組合員訪問日を実施しています。



輪投げやゲームに挑戦 「夏まつり」

JAデイサービスセンターはだのでは、利用者の方々の健康増進などを目的に、年間を通してさまざまなイベントを開いています。17、19日の3日間、夏まつりを開きました。今年には感染症対策を徹底しながら開催。利用者は輪投げや、スィカ割り

た報告書をその日のうちに作成し、組織教育課で集約し、組合長に報告した上で各部署にも回覧しています。組合員の声を生かすため、各支所・支店、本所の該当部署などで、解決に向けてさまざまな検討を重ねています。

今月の対応

現在、感染拡大防止の観点から、組合員訪問日の対話活動を自粛しています。ご意見やご要望がある方は、お近くの支所・支店にご連絡をお願いします。感染症の状況により、今後も組合員訪問日の実施方法が変更になる可能性もありますので、ご理解をお願いします。

(南矢名) ▼北地区Ⅱ 山口幸雄 (横野)

77歳(喜寿)

▽大根地区Ⅱ 杉本榮次 (北矢名)

▽西地区Ⅱ 小平和男 (堀川)

※自己申告ですので、該当の方は誕生月の前月末までに各支所・支店にご連絡ください。

100歳以上

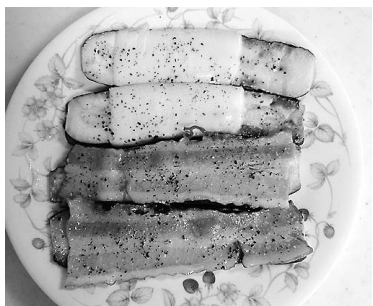
▽南地区Ⅱ 石井勇(今泉)

88歳(米寿)

▽大根地区Ⅱ 高橋喜寿

ズッキーニのソテー パーコンチーズのせ

上支部 増田 育英さん



■材料(2人分)■
ズッキーニ1本、スライスパーコン1枚(短い場合は2枚)、スライスチーズ1枚、オリーブ油大さじ1~2、塩・黒こしょう少々

- 〈作り方〉
①ズッキーニを縦長の4枚に切る。パーコンはズッキーニの長さに合わせて切り、スライスチーズは半分にする。
②フライパンにオリーブ油を入れて中火で熱し、ズッキーニを焼く。両面こんがりとし焼き目が付いたら、ふたをして蒸す。
③ズッキーニが柔らかくなったら、パーコンをフライパンの隙間で焼く。
④パーコンが焼けたらズッキーニ2枚の上にのせる。スライスチーズを残りのズッキーニにのせる。
⑤塩・こしょうを振り、チーズが溶け始めたら火を止めて皿に盛りつける。
〈ひとことアドバイス〉
大きいズッキーニでも柔らかくなり、パーコン・チーズとよく合います。お好みでポン酢を少量かけてもおいしいです。

税務相談日 9月10日(金) 午前9時30分~
法務相談日 9月21日(火) 午後1時30分~
場所 本町支所
予約制ですので、事前にお電話にてご予約をお願いします。受け付け順に相談時間が決まります。
受け付け・ご予約は協同コンサルタントはだの ☎81-2329

よりよい組織目指して

常勤役員と女性部員が意見交換



女性部やJAの取り組みについて話し合った

活動報告し支援を要請

女性部は3日、本所でJAはだの常勤役員との意見交換会を開いた。本部役員13人が出席し、JAの取り組みに関して質問した他、女性部活動を充実させるための要望などを伝えた。

意見交換会は、部員が能な開発目標(SDGs)のポスターを宮永均組合長に贈呈。本所内などに展示し、多くの人に女性部活動を知ってもらおうと、櫛田真弓部長が手渡した。その後、JAで取り組んでいるごみの分別について質問した他、女性部バザーの開催や仲間

女性部は、支部活動の紹介や仲間づくり運動の達成状況など、部内の取り組みについて報告した後、先月作成した持続可

感染症の偏見や差別なくそう デイサービスにリボン贈る



甲斐所長(左)にリボンを贈呈

女性部は12日、JA神奈川県厚生連JAデイサービスセンターはだのにシトラスリボンを贈呈した。大根支部の石井理代支部長と青木紀久代副支部長がセンターを訪れ、甲斐さとみ所長にシトラスリボン100個を手渡した。

リボンは、新型コロナウイルスの感染者やその家族、医療従事者への偏見や差別をなくすために提唱している「シトラスリボンプロジェクト」のシンボルで、賛同した

部員が6月上旬に各支部会で製作したもの。市内でも新規感染者が増加していることから、センターの利用者にも同プロジェクトの取り組みを知ってもらおうと贈呈を決めた。

甲斐所長は「シトラスリボンについて初めて知った利用者が多いと思うので、取り組みを理解するよい機会になった」と話した。

石井支部長は「コロナ禍で活動が制限されている中でも、女性部活動を紹介することができて良かった。感染症が終息したら、シトラスリボン作りの教室も開催していきたい」と意気込む。

いきいき女性部活動



東支部 養毛上2班 坂口 好子さん

東支部は先月、支部活動で曾屋のごみ焼却施設「はだのクリーンセンター」を視察しました。生ごみの80%が水分で、捨てる前に水分を搾るだけで、多くの燃料が削減できることを学びました。夏はスイカなど、水分の多い生ごみが出るので、捨てる際には気を付けたいです。

「エコキャップ回収運動」にも、普段から積極的に取り組んでいます。ペットボトルのキャップは、海外の貧しい子どもたちのためのワクチンへとつながり、この運動は小学校でも受け継がれています。

今後ともごみの分別ルールをしっかり守って、持続可能な開発目標(SDGs)を家庭で取り組むようにしていきたいです。そして支部活動だけでなく、女性部活動や農業まつりなどの行事も、今まで通りに開催できる日を心待ちにしています。

南支部がブドウ共同購入

コロナ禍で呼び掛け



ブドウを配布する高橋支部長(左)

つくり運動のサポートなどを要望した。櫛田部長は「話し合う

今年には感染症の影響で開催を中止。「家族で楽しみにしていた」「ブドウだけでも食べたい」などの声が寄せられたため、高橋支部長が中心となって購入を受け付けと話した。

9月の女性部行事予定表	
9日(木)	10:00～県女性協役員会
15日(水)	9:30～「骨げんき食」料理講習会(午前の部)
//	13:30～「骨げんき食」料理講習会(午後の部)
//	13:30～大根支部「廃油せっけん作り」
16日(木)	14:00～食を学ぶ研修会(ウェブ開催)
29日(水)	13:30～女性理事との料理教室(東・北)
30日(木)	10:00～女性理事との料理教室(西)
//	13:30～女性理事との料理教室(大根・上)

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定が変更になる場合があります。お問い合わせは生活福祉課まで。☎72-7661

支部だより

健康講話

西支部は7月29日、西支部で健康講話を聞いた。コロナ禍での運動不足を解消するため、家の中でできる体操を学んだ。



転倒予防体操を実践

北支部

北支部は7月28日、北支部の敷地



材料をかき混ぜる部員

廃油せっけん作り。部員8人が参加した。部員は、水に溶かしたカセイソーダに廃油を少しずつ加え、竹の棒でよくかき混ぜた。その後、部員同士で協力しながら牛乳パックに流し込んだ。

せっけんは各自家に持ち帰り、1週間ほどかけて固めた後、使いやすい大きさに切った。天日干しして完成させた。

告知板

テレビ・ラジオ
に秦野の農産物

テレビとラジオで、秦野の農産物を紹介します。ぜひ視聴ください。

◇ラジオ「JA Fresh Market」

◎放送日・時間 9月18日(土)午前8時から

◎放送局 FMヨコハマ

◎内容 リポーターの中矢邦子さんが、平沢の加藤宗雅さんの畑を訪れ、秦野産の小菊を紹介しします。

◇テレビ「かながわ旬菜ナビ」

◎放送日・時間 9月19日(日)午前9時から

※再放送は20日(月)午前10時から

◎放送局 テレビ神奈川

◎内容 リポーターの濱村春香さんが、市内で今年から栽培が始まった青パパイアを紹介し

す。畑での作業を体験する他、料理のレシピも紹介します。

「農業まつり」

中止のお知らせ

11月20日(土)、21日(日)に開催を予定していた農業まつりは、新型コロナウイルス感染症の状況などを踏まえて、中止することになりました。

農産物品評会は別の日程で開催する予定です。詳細は来月号に掲載します。

精密機の定期

メンテナンス

各店舗に設置しているコイン精密機のメンテナンスを行います。9月13日(月)に本所、14日(火)午前10時から、同日午後11時に東支所、同日午後11時に北支所で開催します。

農業用廃ビ・

廃ポリを回収

農業用資材の廃棄処分対策の一環として、使用



飯田さんとおつきカボチャ

カボチャ2品種が合体

今泉の飯田確男さん

今泉の飯田確男さんが、ところ、大きささまざまな2品種がくっついたキノコつつきカボチャが10個ほどのような形のカボチャを取った。1本のつるに実が穫した。昨年カボチャを付いたもので、不思議な形育てていた畑に苗を植えたになった原因は分かっている。

飯田さんは「こんなカボチャを見たのは初めて。花粉が飛んできて種類が混ざったのか、面白い形になった」と笑顔を見せた。

あの人この人

江戸時代からの伝統守る

鶴巻下部大山灯籠保存会



鶴巻下部大山灯籠保存会メンバー

地域住民の有志で構成する鶴巻下部大山灯籠保存会。会館の敷地内に灯籠を組み上げた。江戸時代中期から続いている伝統行事で、大山参りの道しるべとして、灯籠に火をともし。市の無形民俗文化財に登録されている。当日はメンバー16人が、高さ3・4メートルになる覆屋(おおいや)と灯籠を組み立てた。18日まで、毎日午後6時ごろから約2時間火がともされた。

で。81-7719

加工相談会を

巡回で開催

農産加工品について、

県農業技術センターとJAの職員が巡回し、相談をお受けします。どなたでもお気軽にご相談ください。

◎日時 9月17日(金)午前10時～午後4時

相談のお申し込み・お

問い合わせは生活福祉課まで。872-7661

組合員資格の

確認のお願い

JA定款の規定により、組合員の皆さまに組合員資格の確認をお願いしています。組合員資格要件に変更がある場合は、速やかにその旨を書面で届け出ていただくことになっています。

【正組合員資格】耕作する土地が10ア以上である

・農業従事日数が1年のうち90日以上である

【法人正組合員資格】農業を営む法人で、事務所または経営に係る土地が秦野市内にある

【准組合員資格】継続して組合の事業を利用する方

組合員資格の喪失の

組合員資格の喪失の

場所	地目	面積(平方尺)
渋沢1429番1	畑	1645
渋沢1429番2	宅地	513.85

582-96絡を当へご連絡ください。

年金相談会

これから年金を受け取る皆さまの複雑な受給手続きの
お手伝いをさせていただきます。
社会保険労務士がご相談にお応えします。

ご来場の方に
粗品を進呈

9月5日(日) 本所農業団地センター
9月8日(水) 鶴巻支店
9月14日(火) 大根支所

日付・場所

※時間は午前9時～午後4時まで。どなたでもご相談いただけます。
※感染症などの状況により、中止になる可能性があります。開催状況はJAはだのホームページをご確認ください。

できるだけ
事前予約を
お願いします

信用課 TEL.81-7716 当日は☎0120-954-092

JA農機ハウスローン

農業のユナ
育みます

応援1 軽トラックの購入にも!

応援2 農業機械の購入にも!

応援3 ハウスの建設にも!

応援4 作業所・倉庫の設置にも!

JAグループ神奈川応援プログラム

利子補給事業

補給率
最長10年
最大

1.0%

JAが取り扱う全ての農業資金(公庫資金を除く)について、最大1.0%(最長10年)の利子補給を行っています。
※貸付条件に合致したすべての方が対象となります。
※商品にはそれぞれ下限利率があり、貸付条件等によって補給率が異なります。
※延滞等が生じた場合、延滞した元金は利子補給対象外になります。
※「JA農機ハウスローン」については、全期間利子補給の対象となります。

保証料助成事業

実質
保証料

0円

JAが取り扱う全ての農業資金において、県農業信用基金協会の保証が付された場合の一括前払い保証料を全額助成するもの。一度お支払いいただいた後、全額助成いたします。
※一括前払い以外の方法により支払われた保証料については、助成の対象となりません。

詳しくは
各支所・支店または融資課まで ☎0120-954-093